

会 議 録

会議名	令和3年度 第5回 丸亀市自治推進委員会
開催日時	令和4年2月22日(火) 18:30~20:20
開催場所	オンライン会議
出席者	<p>出席委員 池永文彦、植谷澄子、鹿子嶋仁、関泰子、天野裕子、岩崎正朔、門裕介、高尾光一、高木明美、塚本詩乃、増田美樹、善木瞭、竹内彩奈、渡辺ななみ</p> <p>欠席委員 なし</p> <p>事務局 市長公室長 山地幸夫 (市長公室秘書政策課) 課長 窪田徹也、副課長 谷本智子、担当長 宇野大志郎</p> <p>市出席者 市民生活部長 小山隆史 (市民生活部生涯学習課) 課長 田中壽紀、市民協働担当長 窪田美由紀</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 丸亀市協働実行計画の進行管理について 2. 市民交流活動センター(マルタス)の運営について 3. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	<p>ご案内の時刻がまいりましたので、ただいまから令和3年度第5回丸亀市自治推進委員会を開会いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。</p> <p>最初にご紹介ですけれども、今回の会議から筒井伸博様に代わりまして、門裕介様にご出席をいただいております。門様、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>議事に入ります前に、本日の資料の確認をいたします。</p> <p style="text-align: center;">《資料の確認》</p> <p>ここからは、丸亀市附属機関設置条例第7条の規定によりまして、鹿子嶋会長に議事進行をお願いいたします。</p>
鹿子嶋会長	<p>コロナの感染拡大が収まらない状況が続いておりますので、オンラインで開催させていただきました。よろしく願いします。</p> <p>本日の会議ですが、14名の委員全員がお集まりですので、丸亀市附属機関設置条例により、会議が有効に成立していることをご報告します。</p> <p>それでは早速議事に入ります。1点目、「丸亀市協働実行計画の進行管理について」、事務局から説明をお願いします。</p>

窪田担当長	《資料1～4に基づき説明》
鹿子嶋会長	ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。
塚本委員	実行計画についてですが、3年間のローリングで見直しをされるという説明がありました。その見直しの際の参考資料としてアンケートを行っていますが、来年度の計画に資料として挙げられているアンケートは平成25年に実施されたものです。平成25年以降、アンケートは実施していないのでしょうか。
窪田担当長	アンケートにつきましては、最後に実施したのが平成25年1月です。
塚本委員	今後、このような形のアンケートを実施する予定はありますか。時代も変わっておりますし、コロナ禍によりいろいろな状況が変化していると思います。また、平成25年という、8、9年前になります。現状や今のニーズを踏まえたうえでの計画になるともっといいと思いますが、いかがでしょうか。
鹿子嶋会長	アンケートの今後の実施予定はありますか。何年ごとに実施するという仕組みではないのでしょうか。
窪田担当長	何年ごとに実施すると決めているわけではありません。市民交流活動センター（マルタス）（以下、「マルタス」という。）の開館など、状況も変わっておりますので、アンケートや聞き取りの実施などについて検討してまいりたいと思います。
鹿子嶋会長	ご意見にあったとおり、コロナ禍やマルタスの開館など、状況が変わっている部分があります。もちろん、アンケートを実施するとなると、ある程度のお金と時間がかかりますので大変ということは分かりますが、前回実施した平成25年から考えるとかなりの年数がたっておりますので、そろそろ検討していただいた方がいいのではないかと思います。 資料2「分野別事業一覧」における追加・削除状況の説明の中で、5つの削除事業があるという説明でした。削除の理由として、一つは、「28 クラウドファンディング普及・啓発事業」についてクラウドファンディング事業の実施主体がなくなったということ、もう一つは「28 市民提案型コロナ対策補助事業」について、令和2年度のみ事業だったということでした。残り三つの事業に関して、削除に至った経緯をもう一度説明していただけますか。
窪田担当長	「25 市民等の行う人権教育・啓発活動の促進」については、啓発用として本やビデオを貸し出す事業ですが、それらの本やビデオが古くなってきたので、事業を廃止したということです。次に「26 男女共同参画推進事業」については、すみません、手元に資料を持ち合わせておらず、詳細についてお答えできません。「27 広報紙の配布業務」につきましては、以前、一つのコミュニティが広報紙の配布事業の一部を行って

	<p>いましたが、今はもう実施していないということで削除しました。</p>
天野委員	<p>今年度の「ステップアップ補助事業」8件というのは実施されたのでしょうか。</p>
窪田担当長	<p>8件の内、既に実績報告が提出されているものが3件です。3件の事業名は、「第46回丸亀お城村マルタス・オンラインステージ」、「城下町の物産展」、「ひろ街でエール飯」です。そのほかの事業については、準備したものの中止や延期になるなど、活動自体が実施できていないものが複数あるようで、報告書はまだ提出されていません。</p>
天野委員	<p>わたし自身がお城村に少しかかわっていたのですが、オンラインで行われていたということを認識していませんでした。</p>
窪田担当長	<p>お城村については、最初、5月のお城まつりの時に小規模で開催しようという話もあったようですが、コロナで延期になり、9月に行ったという記録があります。</p>
塚本委員	<p>丸亀市協働実行計画については、成果指標を表した資料はありますか。毎年度計画の見直しを行うに当たり、成果指標による評価を行っているのでしょうか。</p>
窪田担当長	<p>成果指標として定めているものはありません。</p>
塚本委員	<p>前年度の実行計画に関する報告書類はありますか。毎回、計画だけを見直すというやり方でしょうか。</p>
窪田担当長	<p>ホームページに前年度の報告を掲載しております。</p>
高木副会長	<p>毎年、「提案型協働事業」や「ステップアップ補助事業」について報告書が示されますが、この計画を推進する市側の事業に対する評価や成果についても示していただきたいと思います。</p> <p>また、マルタスができましたので、担当課とマルタスの役割分担が明確に分かるようにしてもいいかと思います。例えば、資料3の4ページにある「施策の展開」のところで、マルタスと担当課の役割が分かるように表現をした方がいいのではないかと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>マルタスについては、次の議題にも関係します。最初に言われた市の立場からの評価については、具体的にどういう形を想定していますか。</p>
高木副会長	<p>協働により実施している事業一覧のようなものがあつたと思いますが、それぞれの担当課が、協働している事業に関して評価してはどうかと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>「提案型協働事業」が分かりやすいと思います。市の方から、「こういう事業に手</p>

	<p>を挙げてほしい」と実施主体を募集して、実際に事業が採択・実施されて完了した後、市として、提案した趣旨にどれくらい合致した成果が得られたかということについて、市側のコメントのようなものがあったとしてもいいのではないかというお話でしょうか。</p>
高木副会長	<p>委託を受けた側の評価と、市側の評価、また、協働という部分において、双方の状況や課題などに関する評価が必要と思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>これまで事業の結果報告は行われてきましたが、やはり、その事業がどの程度意味があったのかということに関しては、市のコメントのようなものもお聞きしたいと思います。市のコメントをつけていただけるのであれば、市民が理解するうえでも役に立つと思いますので、事務局の方でご検討いただけたらと思います。</p>
高木副会長	<p>追加ですが、協働の評価について、やはり受け手側と委託側が意見を出し合って評価をした方がいいと思います。市民全体に対するアンケートも一つの方法だと思いますが、実際に市と協働している市側と団体側、それと、市と団体間についてのアンケートのようなものを実施すると課題が見えやすいのではないかと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>事業者と市とで役割分担がなされると思いますが、その役割分担が有効に機能しているかなど、いろいろと考えることはあると思います。そういう点がより分かりやすいように、事業者側と市側にそれぞれ意見聴取を行うという趣旨でしょうか。</p>
高木副会長	<p>はい。</p>
鹿子嶋会長	<p>実際に協働事業を行う際に、市側が事業内容に踏み込むことが少なく、バックアップや広報などの消極的なかわりにとどまることが多いというイメージを持っています。市の方ももう少しその事業の中身に入って協力できる場所があるのではないかという意見が、もしかしたら事業者側から出てくるかもしれませんので、その点に関して事業者、市側それぞれの評価が分かるように意見聴取を行うということも確かに意味がありそうです。</p> <p>先ほどの件もあわせて、高木委員は実際に市民活動をされているので、ご経験からそういったご発言が出てきているのではないかと思います。高木委員からご指摘があったような点を踏まえて、意見聴取のような形を組み込めないかご検討いただければ、さらに制度として良くなるのではないかと思いますので、よろしくお願いします。</p>
塚本委員	<p>資料1の11ページです。個別施策「②相談窓口の設置」の施策の展開についてですが、「相談窓口の設置について検討」と書かれています。既に相談窓口が設置されているのであれば、「検討」という表現は不要だと思いますし、そうではなくて、設置された後のことについて、今後どのように発展させていくかという点が計画にあった方がいいのであれば、文章表現を見直した方がいいと思いました。</p>

田中課長	現状に合わせた表現に変更させていただきます。
植谷委員	<p>「ステップアップ補助事業」についてですが、令和3年度ではこれまでに3件の実績があり、ほかの事業はコロナにより予定どおり実施できていない状況ということですが、来年度についても同じような状況が想定できるのではないかと思います。活動団体の方は、その事業を準備する段階で費用が発生したり、準備をして何度も事業を実施しようとしたけれどもできなかつたりすることがあると思います。そういう場合、補助金の5万円はどう支出されるのでしょうか。来年度の運用について決まっていれば教えていただきたいと思います。</p>
窪田担当長	<p>事業実施にあたり、準備にかかった経費は補助対象になります。最初に申請していただいている内容について、大きく変わっていなければ、例えば日程や場所が変わったという程度の変更であれば許容範囲ですので、対象経費として見させていただきます。この事業は単年度での補助事業ですので、3月末での実績報告は必ずいただきます。翌年度につきましては、また翌年度の「ステップアップ補助金」というものがありますので、こちらの方に申請していただきますが、この補助金は、初めての活動に対して後押しとなるような補助金という位置づけです。ただ、コロナの状況もありますので、補助対象の事業とするかどうかは、申請が出てきたときに、できるだけ対応できるような形で審査を進めていきたいと思っています。</p>
鹿子嶋会長	<p>ただいまのご説明のとおり、申請していた事業がコロナの影響でほとんど実施できなかった場合は、実際に事業がどのような影響を受けたかということをお勘案していただくということで、今の状況では、来年度にもう一度、同じような内容で申請できる可能性もあるということですのでよろしいでしょうか。</p>
田中課長	<p>コロナの影響により活動ができなかったということが実際にあると思います。担当課としましては、コロナ禍でも市民活動を誘発していく必要があると思っておりますので、来年度予算については、これから議会での審議をいただくことにはなりますが、来年度に対応できる件数を増やせるように、予算を増額して要求させていただいているところです。</p>
鹿子嶋会長	<p>コロナの影響により補助事業を縮小するというのではなく、むしろ逆で、こういう状況だからこそ、いろいろな活動が活性化するようにということで、予算を増額要求されているということです。</p> <p>ほかにご質問などもないようでしたら、次の議題「2. 市民交流活動センター（マルタス）の運営について」に移ります。事務局から説明をお願いします。</p>
窪田担当長	<p>すみません。最初に、資料の訂正があります。資料5の1ページ目の中段くらいに、「9月31日」と記載していますが、「9月30日」に修正させていただきます。</p>

	<p>それでは、資料の説明をいたします。</p> <p style="text-align: center;">《資料5に基づき説明》</p> <p>当委員会は、マルタスが、自治推進や住民参加などの側面で有効に機能しているかどうかということを検証する役割を担っています。ただ、新しくできたばかりの施設ですので、何をもって検証を行うかというのは難しいところがあると思います。今回は事務局の方で、人数などの指標を出していただいております。また、実際の活動内容に関しましても、詳しい資料、ビジュアル的にも非常に分かりやすい資料を作成していただきました。</p> <p>ただ、困ったことに、期間がちょうどコロナの影響を受けている時期と重なっているということもありますので、これをどう評価したらいいのかという点が難しいところかと思えます。</p> <p>そこで、みなさんの方からも、マルタスが機能しているかどうかについて検証する際に、例えば、こういったデータや情報があればさらに分かりやすいというものがありましたらご提案いただきたいと思います。また、それに限らず、マルタスの運営について何かご意見やご質問などがございましたら、ご自由にお願ひします。</p>
高木副会長	<p>資料5の1ページを見て、マルタスの「交流」という部分については、すごく大きな成果を上げていると思いました。また、「活動」のところに記載されている「市民活動相談」の件数が思ったよりかなり多いと思いました。当初の市民活動登録に対する問い合わせが200件ぐらいあったとして、それを差し引いても800件ぐらいの相談件数があったということで、1か月にしたら70件ほどの問い合わせがあるということです。この相談内容をしっかり分析すると、丸亀市の市民活動の状況や課題、ニーズ、また、市民活動が生まれるようにするために必要な支援は何かといった点について明らかにできるのではないかと思います。</p> <p>マルタスのホームページを見ると、「こういう場合にこういう相談をしてください」とか、「このような相談ができますよ」などという具体的な表現や提案があまりない中で、これだけの相談件数があるというのは、実際、この相談の中身がどういうものかということについて分析する意味があるのではないかと思います。</p> <p>そのほか、マルタスのチラシ置き場ですが、やはりもう少し拡充できないのかという希望があります。</p> <p>また、ホームページの中身に関する希望ですが、市民活動の支援に関する充実として、例えば助成金の情報や、NPOの申請に関する項目などについても追加してはどうかと思いました。</p>
鹿子嶋会長	<p>いくつか重要なお提案をいただきました。</p> <p>わたしも最初、相談件数が996件というのを見て、非常に多いと思いました。ご意見にあったとおり、この相談内容を分析して、どういう相談が多いのかということを確認すると、具体的に、こちらからどういう情報や支援を提供すればいいのかと</p>

	<p>ということも分かってきます。かなり多い相談に関しては、あらかじめホームページで解決方法などを情報発信するという対応もあるでしょうから、事務局の方でも相談内容について分析を進めていただきたいと思います。もちろん自治推進委員会にもその分析結果の情報をご提示いただければありがたいですが、市としても、相談実績を見て、あらかじめスムーズに対応できるような手段を講じていただければいいのではないかと思います。</p> <p>そのほか、いろいろご提案をいただきましたので、対応できるものに関しては、できるだけ対応していただきたいと思います。</p> <p>今回、示していただいた相談件数などの数字を見ると、マルタスがみなさんにしっかり活用されているのではないかという印象を持ちました。コロナの影響が懸念材料ではありますが、入館者数を見ても、当初の目標値にかなり近い数字が出ているということですので、せっかく作ったのに利用されていないという最悪の状況ではないことがはっきりしております。ぜひ、さらに活用しやすいように工夫し、活用状況を維持していただければと思います。</p> <p>説明していただいた資料5の1ページのところです。先ほどから話題になっているとおり、来館者数など、かなりいい数字で伸びているのではないかという印象を受けております。</p> <p>もう1点注目したいのは、ホームページのアクセス数です。ここに出していただいているアクセス数は、全体のアクセス数という理解でよろしいでしょうか。</p> <p>アクセス数については、どこからアクセスしたかという点についても、細かく地域別に見ることができると思いますので、例えば、丸亀の市民のみなさんが本当にマルタスに興味を持ち、圧倒的に丸亀からのアクセスが多いという状況であれば、ホームページの効果というものも出ているのではないかと思います。そういう細かい分析などはされているのかどうか、お伺いできればと思います。</p> <p>一つ前の議題の中で、アンケートの話があったと思いますが、前回のアンケートの資料を見ますと、3,000人を対象に、おそらく紙媒体で実施したと思います。しかし今であれば、ウェブ形式のアンケートとか、比較的簡単に広くご意見をいただけるシステムもありますので、前回に比べると、より多くの方の意見を反映させることが可能になるのではないかと思います。マルタスは開館して間もないというところもありますので、いろいろな角度から新しい方法も取り入れると、より活発になり、市民交流の場といったところも広がっていくのではないかと思います。</p>
窪田担当長	<p>最初の質問ですが、ページビューの数なので、全体のアクセス数となっております。ホームページのアクセスについては、毎月分析を行っておりまして、現在、丸亀市からのアクセスが全体の約10%を占め、いちばん多くなっております。そのほか、香川県下では、次が高松市、三豊市、坂出市と続いており、香川県内の市で、ホームページのアクセス全体の約18%となっております。それ以外は、2番目は大阪からとなっております。</p> <p>ホームページを見ていただいている方の年齢についてですが、18歳から54歳の方</p>

	<p>で87%ほどになっており、また、スマホやパソコンという形での閲覧となっております。そのほか、ウェブによるアンケートの話ですが、今の時代に合った方法で対応することが必要と考えております。</p>
鹿子嶋会長	<p>少し驚いたのは、アクセスについて香川県内からが中心かと思ったら、大阪から結構アクセスがあるということです。ただ、利用者として大阪からわざわざ来られるということも考えにくいので、一体どういう目的で大阪や県外からアクセスしているのか、分かれば教えてください。</p>
窪田担当長	<p>アクセスに関する話をいろいろ聞くと、全国的な基地局が大阪や横浜などにあるようで、そこを経由してくるものが集約されてカウントされているようです。香川県下については、丸亀や高松などの個別のものがあるのですが、県外の場合は、日本全国から基地局を経由してきているとのことでした。</p> <p>マルタスについてよく問い合わせをいただくのですが、全国的にも新しい施設ですので、閲覧やリサーチのためにご利用いただいているのかと思っています。県内や近隣の方は、マルタスに実際に行ってみようとか、活動に参加してみようとか、動きを求めてホームページを見ているように感じています。</p>
鹿子嶋会長	<p>基地局の関係があるんですね。分かりました。マルタスについて、今後もこのような運営が続いて、一つの成功事例のようになっていくと、おそらくいろいろな所からの見学や問い合わせが増えてくると思います。</p>
塚本委員	<p>先ほどの事務局の説明で、開館後半年が経過して、新規の相談が増えているということでした。新規の相談から実際の市民活動登録につながった件数というのは、数値として出ているのでしょうか。</p>
窪田担当長	<p>数値は出ていません。相談を受けているマルタスの支援カウンターの方に、どういう内容の相談が多いか聞き取りをしたうえで、今日お示しをさせていただいております。先ほどの相談内容の分析ということは必要と思いますので、分析結果が出たときには共有させていただきたいと思っております。</p>
鹿子嶋会長	<p>活動したことのない人たちからの問い合わせが結構あるということに少し驚きました。実際に人が集まる活動拠点のような場所があるのと、単に仮想的に、ホームページ上で市民活動団体を束ねて集めるという方法を比べると、後者のほうが効率的なように思えます。しかし実際には、現実には人が動いて集まって、相談したり活動したりしているのを見て、自分も何かできるのではないかと思うのだと思います。おそらく、人の心を動かすには、仮想ではあまり力がない、微力です。</p> <p>やはり、実際に人が集まって、実際の活動を目にできるという場があることは、思ったよりも威力があると、わたしは思います。</p>

植谷委員	来館者数についてですが、どのような方法でカウントしているのでしょうか。
窪田担当長	マルタスの1階と2階のすべての入口のところにセンサーを設置し、それによりカウントしております。
田中課長	センサーについてですが、マルタスに入る入口の部分、それから2階の庁舎から接続している部分、それぞれでカメラのシステムを使って、出入りする方が分かるようなものを導入しております。
植谷委員	<p>特に夕方や土日には学生などたくさんの方が来られています。秋以降、わたしもお邪魔させてもらったときに、若い方への啓発というか、マナーアップを促すようなポスターを見ました。</p> <p>わたしも子ども連れで行かせてもらいましたが、座る場所がない。学生さんは席を離れていましたが、バッグが置かれていたために他の方の座る場所がないということを経験しました。そのような状況の中、ポスターが貼られており、若い方やいろいろな方に向けて、すごくシンプルで、ちょっとおしゃれでいい感じの文言が書かれていました。ごみのことも含めて、そういうふうな啓発することはいいことだと思います。</p> <p>このような運営上の問題、みんなが心地よく使える場所の提供という部分での課題とか問題点とかがあれば教えていただけたらと思います。</p>
窪田担当長	<p>学生のマナーアップについてですが、実際に10月の再開館の後、多くの学生にご利用いただき、一般の方からいろいろご意見をいただくことができました。そこで、ポスターを掲示したり、マナーアップキャンペーンということで、学校にチラシを配りに行ったりしました。公共機関を使う際のマナーをマルタスで学んでいただけたらという思いで、丁寧に啓発をしていきたいと考えております。</p> <p>ごみについては基本的に持ち帰りをお願いしておりますので、その点につきましても引き続き、周知を行っていきたいと考えております。</p>
鹿子嶋会長	マルタスを利用した際の苦情などについて、運営団体の方で吸い上げる仕組みや窓口はあるのでしょうか。
窪田担当長	特に「お客様の声」のようなものを設けるといことはしておりません。利用者から支援カウンターの方に直接お声をいただいているのが現状です。
鹿子嶋会長	改善のために、ホームページ上でもいいのですが、苦情などを寄せていただくところがあってもいいのかなと思いました。例えば、席が占領されているとか、ごみがちょっと気になるといった不満を述べる場所があってもいいのかなという気はしました。苦情の吸い上げ方法や対応に関して、何かご検討いただけたら、さらによくなるのではないかと個人的には思います。

窪田担当長	<p>マルタスのホームページ上に「お問い合わせ」というフォームはありますが、意見を寄せていただくところとしては、支援カウンターが主です。</p>
田中課長	<p>補足ですが、マルタスでも苦情を受け付けておりますし、施設の設置者が丸亀市ということで、市の方に直接寄せられた苦情につきましては、その都度、対応や、回答が必要なものについては回答しているという状況です。</p>
鹿子嶋会長	<p>マルタスができてから第1回目の検証としまして、活動状況を把握したうえでマルタスがどういう状況にあるかということをごみなさんで情報共有していただきました。今後は、今年度の数値等と比較しながら、推移を検証することが可能になってくるかと思っております。また、そのほかにも情報がほしいということであれば、個別に事務局の方にご提案いただいてもいいかと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
天野委員	<p>マルタスの相談カウンターというのは、1階の、何人かスタッフの方がいらっしゃるカウンターのことでしょうか。</p>
窪田担当長	<p>そうです。</p>
天野委員	<p>支援カウンターにいるスタッフの方は、他市から来られている方が多いように思っています。年齢的なこともあるのかもしれませんが、相談しにくいように感じました。</p>
窪田担当長	<p>マルタスには指定管理者制度を導入しておりますので、指定管理者の方で雇用している方が常駐しております。全員が丸亀市民であるかと言われれば、そうではない状態です。</p>
鹿子嶋会長	<p>指定管理者制度を導入している施設の運営の中身は、運営主体が決定しますので、人員配置に関する要望を出しにくいところかと思っております。</p>
窪田担当長	<p>確かに、運営のための人員については指定管理者の方で配置しておりますが、丸亀市としましては、市民活動に携われるような人材育成を行っていきたくて考えております。そのため、丸亀市に根付いた人の採用などにより、人材育成につながるような実践を行う施設であってほしいと思っておりますので、その点については伝えていきたいと思っております。</p>
鹿子嶋会長	<p>次回会議の開催については、今後調整させていただきます。今回はオンラインで開催しましたが、次回は、対面で開催できるかもしれません。その場合は、マルタスの会議室を使用できたらと思っております。</p> <p>以上で本日の会議は終了します。長時間、お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>